

地域レポート

多くの県民へ届けたい！地域に根付いたスポーツチームと協働した啓発の取り組み ～世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間 2023～

沖縄県発達障害者支援センター がじゅま～る
山 里 恵

1. 沖縄県発達障害者支援センターがじゅま～るについて

当センターは沖縄県こども生活福祉部障害福祉課より、社会福祉法人沖縄肢体不自由児協会が事業委託を受け、平成21年度より発達障害者支援センターを運営しております。

発達障がい児（者）への支援を総合的に行うことと支援体制の整備を目的とした拠点機関となっており、主な業務は直接支援、間接支援、普及啓発の3つに分けられます。

今回は普及啓発のなかで大きなイベントである、世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間での取り組みについてご紹介いたします。

2. 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間とは

世界自閉症啓発デーとは、平成19年の国連総会において、カタール王国王妃の提案により、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われています。

わが国でも、世界自閉症啓発デー日本実行委員会が組織され、自閉症をはじめとする発達障害について、広く啓発する活動を行っています。

具体的には、毎年、世界自閉症啓発デーの4月2日から8日を発達障害啓発週間として、シンポジウムの開催やランドマークのブルーライトアップ等の活動を行っています。

3. 沖縄県内の取り組み

沖縄県内でも平成26年から毎年工夫をこらし、様々な啓発研修やイベント等を実施してきました。

しかし、参加者は当事者やその家族、支援者など限られた人となっており、大きな目的である一般県民に啓発・周知するにはどう届けるかが課題だと感じていました。

そこで令和5年は、県内で人気の高い琉球ゴールデンキングス（以下“キングス”）さん、沖縄アリーナさんのお力をお借りすることで多くのバスケットファン、県民に届くのではないかと考え、当センターより沖縄アリーナさんへご相談したところ、キングスの「沖縄をもっと元気に」という活動理念と、沖縄アリーナの「沖縄アリーナを多くの方々に楽しんでいただきたい」という活動理念等と合致したこともあり多大なご協力をいただき実施することができました。

4. 沖縄アリーナ・琉球ゴールデンキングスとの協働

キングスのマスコットであるゴーディとキングス・沖縄アリーナのロゴを掲載した世界自閉症啓発デーのステッカーを作成し、各市町村へ配布しました。



また4/2～4/8の啓発週間に合わせ、沖縄アリーナさんの正面ライトをシンボルカラーであるブルーにライトアップしていただきました。

メインエントランスの電光掲示板には啓発の文字を流し、米軍基地に隣接していることもあり、日本語と英語の両方で表記しました。

またキングス選手2名に出演をしてもらった啓発動画を作成し、YouTubeへのアップ（現在は配信

終了) や、各自治体の啓発イベントにも活用していただきました。

5. 4月5日の琉球ゴールデンキングス戦

試合当日は啓発ブースを設置、ステッカーの配布や試合開始前・ハーフタイム時に館内のブルーライトアップや大型ビジョンで啓発動画を流していただきました。

またセンサリールームの仮設置も実施しました。

6. センサリールーム

センサリールームとは、音や光、においなどの五感の刺激を少なくし、聴覚・視覚など感覚過敏の症状がある人やその家族が安心して過ごせる空間・部屋のことです。

県外では取り組みが始まっていますが、沖縄県内では前例がないことから、啓発デーに併せて実施依頼を沖縄アリーナさんへご相談したところ、既存のスイートルームを活用してみましようご提案いただきました。

コートに面してガラス張りのお部屋とガラスの向こうには観戦のための座席があり、ドアで自由に入ることができます。

ガラスにはブラインドが取り付けられていますので、光が苦手な方は必要時に光を遮ることができます。

室内は会場の大きな音が抑えられ、スピーカーの音量や照明・空調を調整することができます。

さらに当日は沖縄アリーナさんにてイヤーマフや加重ブランケットを用意され、利用者がより安心して利用できる環境を整えてくださいました。

実際利用した聴覚過敏があるお子さんは、来るまではとても不安で途中で帰ることも考えていたのですが頑張って来場され、試合が進むにつれ会場のコールに合わせて大きな声援を出し、最後にはイヤーマフをしながらですが、自らガラスの向こうの観戦席でお父さんと応援を楽しむ様子が見られ、試合終了後には、「また応援に来たい！」という言葉まで聞くことができました。

一部始終を見ていた私たちは、1時間程の間で子



写真提供：琉球ゴールデンキングス



写真提供：沖縄アリーナ

どもが成長する姿に驚かされ、感動し、環境を整えることで特性のある子どもも他の子と同様に様々な経験をすることができるかと強く感じました。

7. 協働した取り組みを通して

当初の目的だった多くの県民に届けたいという点に関しては、キングスさん・沖縄アリーナさんの人気の高さ・発信力のおかげで、予想以上に県内外に広く啓発をできたと感じています。

センサリールームの実施では協働したことで、特性ゆえに観戦に行きたくても行けない方たちがいること、受け入れ側が環境を少し整えることで、その

方たちも観戦を楽しんでもらえることを知っていただけで、“常設できるよう今後も取り組んでいきたい”との嬉しいお言葉をいただきました。

小さな一歩かもしれませんが、沖縄アリーナさんをはじめとし、沖縄県内で発達障害等の特性が理解・環境整備がされる、皆が暮らしやすい・参加できる地域社会が実現するのではないかと考えております。

当センターとしても、沖縄県内の様々な方に正しく特性を知っていただくこと、社会のなかでできる取り組みについても提案、協働できるよう精進を重ねていきたいと思っております。

この度はこのような貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。